

## 実証研究の手順

- テーマ（なぜ）の決定
- 命題・仮説の検討
- 「帰無仮説」の設定
- データの収集
- 帰無仮説棄却の判断
- 理論についての帰納的な考察

20

## テーマ（命題）の決定

- 「○○についての」は避ける
- 「なぜ...は、××なのか」という問
  - 因果関係の推論
- 戸塚論文の場合
  - なぜ、投票区ごとに投票率に差があるのか

21

## 命題とその仮説

- 命題
  - これからデータで裏付けられるべき因果関係についてのステートメント
  - 「Aならば、Bである」という形式のステートメント
- 仮説
  - その因果関係のメカニズムについての「仮の」説明
  - まだ裏付けられていないので「仮」

22

## 命題とその仮説—戸塚論文の場合

- 命題
  - コスト・ベネフィットの計算の結果として、投票参加が起こる
  - 参加による政治効果を認める有権者が多い地域では、投票率が上がる

23

## 命題とその仮説—戸塚論文の場合

- 命題に対する仮説
  - 帰属意識が高いと投票する
  - 直接的利害があると投票する
  - 投票しやすければ投票する

24

## 帰無仮説

- 帰属意識の高さと投票は無関係
- 直接的利害の有無と投票は無関係
- 投票しやすさと投票は無関係

ただし、報告論文ではこれらを明示的には書くことはしない

25

## データの収集:作業定義

- 抽象概念を作業(データ収集や統計処理)できるように操作すること
- 集計データ(eg. 人口統計)
- 調査データ

26

## 戸塚論文の作業定義

- 帰属意識
  - 県外通勤通学率
  - 高齢者人口率
  - 持ち家率
- 利益誘導
  - 地元候補者の有無
  - 0/1のダミー変数
- 物理障害
  - 投票所までの所要時間
  - 住宅地図による実測値 4点の加重平均

27

## 帰無仮説の棄却-戸塚論文の場合

- 表5
- t-値による検討(偶然性の検討)
  - およその目安として、 $t > 2$ であれば、偶然の確率は5%以下と考える。

28

## 理論のレベルと実証のレベル

- 理論
  - 人は合理的判断に基づいて行動

$$R = (PB) - C$$

- 実証(具体的な命題)と3つの仮説
- 実証研究の積み重ねとしての理論
- 「戸塚研究」は理論の有効性を裏付ける1つの研究成果

29